

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	1270902248		
法人名	有限会社 アートアシスト		
事業所名	グループホーム つぶぞろい		
所在地	千葉県船橋市本町5-19海老川マンション (電話) 047-426-0112		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤7人, 非常勤9人, 常勤換算13.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての 1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 116 円
	または1日当たり 1,166 円		

(4) 利用者の概要(2月26日現在)

利用者人数	18名	男性 0名	女性 18名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	10	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東武塚田クリニック、船橋総合病院、デンタルクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームはJR船橋駅に近くのマンション1~2階で日当たり良く、東側に海老川が流れ、春には桜の名所となる遊歩道が近い。責任者は「利用者中心が全て」を判断基準とし、「楽しい第二の家」を目指して「共に暮らす」という理念・方針を職員に理解・実践されるよう指導している。利用者職員また利用者間、職員間の人間関係が良く和気藹々とした雰囲気の中で楽しく暮らしている。利用者の若い頃の職業や経験を尊重し、全員役割があり、また午前中毎日散歩に出かけるなど「出来ること」を中心に自立した生活をしている。また経験豊かな職員が多く離職者が少ないので安定した職場環境である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である事故防止は連絡会の共有報告例を有効に活用し取り組まれていた。情報共有の徹底は、申し送りを読み上げ確認し徹底されている。前回キザミ食1例への工夫の指摘があったが、現在は全員常食である、食事の彩り、盛り付けなど工夫をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の結果、重点的に改善課題として4項目を選定し1.再度責任者による理念の周知徹底 2.研修としてコミュニケーションスキルを取り上げる 3.ボランティアの開拓 4.地域での認知症理解の講演会など改善課題を取り上げ、大変意欲的な取り組みである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 年2回開催している。出席者は利用者・家族代表と地域の民生委員、自治会長、町会長、包括支援センターの方、事業所代表である。内容は地域との連携、ターミナルケアの取り組み、外部評価の報告などである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族が訪問される方は訪問時に話を聞く場合が多い。訪問の少ない家族には請求書送付時にイベント行事など暮らしぶり情報を同封し、電話などにより要望を聞いている。制度として苦情解決のしくみは重要事項として説明され、要望・苦情のあった場合は制度に則り速やかに解決されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 建物内の自治会館で「認知症を理解し、予防する」講演会をグループホーム連絡会主催で実施された。地域の方にグループホームの役割や認知症の理解が得られる貴重な取り組みである。また毎日の散歩時の挨拶・会話で馴染みになり、徘徊した場合などに協力が得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者中心で全てを判断する」「楽しい第二の家」「共に暮らす」「地域でささえる」という方向付けをし、職員の理解と実践を求めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践は2人の班長という名称のユニット長がリーダーとして、職員全員が主体的に取り組んでいる。和気藹々とした雰囲気で行われている。		理念・方針の実践面で時として原点に立ち戻る必要がある。打ち合わせ会時などに理念の再確認が望ましい。また新職員への考え方の徹底も期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	建物内の自治会館で「認知症を理解し、予防する」講演会をグループホーム連絡会主催で実施し、17名の地域の方が参加され、当ホームを見学された。また毎日の散歩時の挨拶・会話で馴染みになり、徘徊した場合の協力が得られている。		誰もが認知症になる可能性があり、地域で支える取り組みが必要となる。開催された講演会は地域の方との共同理解として貴重であり、ますます多く機会を設定されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善課題、事故防止研修、キザミ食の工夫、申し送りの徹底など改善されていた。今回の取り組みでは4つの重点課題を設定し前向きである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年2回開催している。会議には利用者・家族代表と民生委員、自治会長、町会長、包括支援センターなど出席され、内容は地域との連携、ターミナルケアの取り組み、外部評価の報告などである。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課、高齢者福祉課、生活支援課の各担当者とはGH連絡会の会長役割もあり、情報交換がかなりされ、協働関係にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の方の訪問時に会話されるが、訪問の少ない家族には毎月の郵便につぶぞろい新聞やつぶぞろい会報など同封し情報提供している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に、苦情解決制度を記載し説明している。また行政の窓口も案内されている。電話や直接に要望・苦情が申し込まれた場合、制度に従って迅速に解決されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少ない、退職した職員が戻った例もあり、馴染みの職員が安定している。新職員が入った場合も全職員が全利用者を見る仕組みのため影響は少ない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成はリーダーや経験者が未経験者に現場で伝えるOJTが中心である。外部研修へ参加した場合の情報共有化はされるが、勤務実態から外部参加が困難である。むしろ講師を招いて内部研修を検討している。</p>		<p>目標が楽しいグループホームなので、例えば「笑顔あふれる利用者、職員」と言った課題でコミュニケーションスキルなど現場の朝の打ち合わせ会議を活用した短時間研修など内部研修の充実が期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>責任者がグループホーム連絡会の会長を担っている関係で、多くの事業者との交流機会があり、互いに情報共有を図り、リスクの予防などサービス質の向上に役立てている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅で使用しているタンスや衣類、履物、食器、箸、仏壇など愛用のものを持ち込んでもらっている。1ヶ月くらいでホームの方が良い寂しくないと言われるので、それまでの期間集中して配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の若い頃の仕事や得意なことを聞き出し、全員で役割を持っている。調理、お茶接待、味見、掃除、ゴミ箱作りなど、利用者全員が仕事を分担し、共に過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者中心に全ての判断基準を置くことが当施設の方針である。利用者・家族の希望は勿論、本人の仕事や経験より、出来ること、したいことを察知し、役割を話し合っている。利用者はホームへ仕事をしに来ていると思っているとのことである。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員がケアに係ること事から、全員から意見を聞き、出来ること、したいことを中心に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員全員が一人ひとりの利用者の計画見直しに係ることから、職員一人ひとりの観察力を重視している。気づいたことはリーダーや経験豊かな職員が教えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性に関しては、将来ショートステイ機能の付加も責任者のビジョンの中には検討課題としてあるようである。現状下でも医療連携体制を活かしての近隣クリニックからの定期訪問診療や終末期入院の回避などのほか地域住民には認知症セミナーを開くなど地域にも貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの定期訪問診療以外にも希望があれば、入所前からのかかりつけ医への受診も家族対応で行っている。なお、受診結果に関する情報はスタッフ・家族との共有化がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族とは、利用者が重度化した場合の終末期のあり方について十分話し合っている。一方、ターミナルケアを実施する側のスタッフも方針を理解・共有して協力医療機関の医師の全面的なサポートを得ながらこれまで2件の看取りの実績を持っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当ホームでは、人としての尊厳を念頭におき申し送りの場で日常的にプライバシーの確保について具体的な入浴やトイレ時の場面に即して言葉遣いも含めて話し合っている。また、個人情報記録については、重要書類ファイルとして厳重に保管している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを家族の情報と日々の観察から十分把握した上で、極力制約しないように努めている。レクレーションへの参加にも強制しないで読書や編み物をしたい人には希望どおりゆったり過ごさせている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりには、お米を研ぐ人、包丁を握る人、もやしを始末する人と利用者も一緒になって行っている。献立票があるわけでないが逆にスタッフがこれこれの食材があるからこんな料理はどうかしら？と利用者に投げかけ意見を聞きながらメニューを決定するというグループホーム本来の良さであるアットホームな雰囲気強く感じた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は、週2回であるが失禁などで必要があればシャワーなどで対応している。また、1階と2階の入浴日を重複しないようにしているので、相互に融通しあえる余地が残されている。入浴前の体温、血圧チェックなども徹底している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴は、家族の情報や日常のコミュニケーションから把握しており、いわゆる昔とった杵柄を活かした場面づくり(旅館 洗い物、小料理屋 厨房、クリーニング 洗濯物たたみ等)に努めている。		今後の課題として、ボランティアの導入が不十分と見受けられるので各種ボランティアの開拓・活用を望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日には、必ず戸外に出かけるようにしている。車いすや杖利用の歩行困難者に対してもできるだけ外出できるよう支援している。散歩の副次的な効果として近隣住民との関係性が深まり、徘徊していた利用者を住民の方が連れ戻してくれた例もあったということである。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>安易な施錠は、身体拘束にあたることを職員は十分理解しており鍵をかけるのは夜8時以降玄関だけとなっている。徘徊の注意の必要な人と時間帯をスタッフは把握しており、そのときは監視を強めるが万一外に出た場合にはさりげなくついて行きタイミングを見計らって連れて帰るようにしている。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署と合同で消火訓練、避難訓練を年1回実施している。また、年2回防災教育を消防署の指導で行っている。「防災の手引き」を作成し職員に配布している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士はいないのでカロリー計算や栄養バランスを科学的には計算できないが野菜を中心に肉、魚も取り入れながら提供するようにしている。食事量、水分量も一人ひとり観察しながら確保に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築30年の元社員寮の1, 2階を改装した建物であるが、そのハンデを感じさせないスタッフと利用者の協働作品であふれている。玄関表のホーム名の入った大きな手作り表札やドアを開ければ紙で作ったコンパクトなお雛様の飾りなどまさに「わたし達の家」が伝わってくる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、入所前の使い慣れた大切なもの（仏壇、整理ダンスなど）が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるようになっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。